

次に、議席1番、濱野健司君。

〔1番 濱野健司君登壇〕

○1番（濱野健司君） 皆様、おはようございます。傍聴者の皆さん、お越しいただき大変ありがとうございます。議席番号1番、濱野でございます。議長の許しをいただきましたので、私のほうから一般質問をさせていただきたいと思います。

1項目め、境一中吹奏楽部の金賞受賞についてでございます。①としまして、金賞受賞の記念演奏会を実施したが、改めて演奏会を実施してはいかがか。

②といたしまして、懸垂幕など、垂れ幕ですね、こちらのようなPRをもっとすべきではなかったのかという質問をさせていただきたいと思います。

この質問につきましては、先日行われました演奏会を受けまして、そこに比較的急といいますか、少しあれだったもので、なかなか来られなかった方たちの声を非常に多くいただきました。また、700人を超す方が集まったといいますが、もう一度聞きたい、そのような声などもありましたので、今回質問させていただき運びとなりました。

そして、2項目めでございます。地域活性化について、①としまして、震災後、各地でイベントなど盛り上がりを見せているが、軽トラ市の今後や何かお考えはございますでしょうか。

②としまして、宮本町のさくら土手でさくら祭りが開催されています。そちらがちょうちんをたしか飾って、桜を楽しめるようなものをさくら祭りという形で認識しておりますが、そちらの内容を充実してはいかがかという質問でございます。

③に圏央道建設に伴い、ふれあいの里の伝統工芸館、バーベキュー広場が新しくりましたが、そのほかにも市民農園などございます。それらの施設を利用してイベントなどを計画してはいかがか。

これらの質問をしていきたいと思います。回答のほうをよろしく願いいたします。

○議長（橋本正裕君） 12番、齊藤政一君。

○12番（齊藤政一君） これまで一般質問2日間、皆さんにやってもらって、また今濱野議員のほうからも通告に従って質問がありましたが、これは執行部の方に対してはちょっと関係ないことなのですけれども、この一般質問の通告については議運のほうでもいろいろ整理をするべきということで、おとといの全員協議会においてもそうした議員の必携のつづりを皆さんにお配りをして、そして準備周到にしてきちとした質問をして、答弁をいただきたいということを議長のほうから各質問参加者にしたところだと思います。

それで、今の質問の中で、いわゆる我々が質問すべきことは、そうした政策的なもの、あるいは大所高所でやっていくもの、あるいは特に今の吹奏楽部の金賞に輝いたということはだれもが認めているところであります。それで、先ごろの臨時会においても教育長からその報告がなされ、そして中央公民館で発表会をやった後は受験勉強に励んでもらうということが義務教育の教育内容だと。こういう中で、私はやっぱり議会としてしっかりした質問をしていくという形では、毅然たる形で質問して

もらいたいということで、この（２）については地域活性化ということで事業内容に伴うものがありますが、この（１）の質問内容については、何ら町にたずもののが何なのかと、そういったものが見えてこない。この辺を確認して、議長が認めるものであれば答弁を求めてもいいと思いますが、これはある意味では失礼な質問ではないかなと、そんな感じがしますので、議長のほうの判断を仰ぎたいと思います。

○議長（橋本正裕君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前10時55分

---

再開 午前11時12分

○議長（橋本正裕君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

先ほど齊藤政一議会運営委員長からご質問のありました件についてですが、議長の判断におきまして、今回は濱野健司議員の質問を認めます。よろしくお願いをしたいと思います。

ただいまの質問の1項目めに対する答弁を求めます。

教育長、佐怒賀政守君。

〔教育長 佐怒賀政守君登壇〕

○教育長（佐怒賀政守君） 濱野健司議員の境第一中学校吹奏楽部の金賞受賞についての質問にお答えいたします。

まず、金賞受賞の記念演奏会を実施したが、改めて演奏会を実施してはいかがかとのご質問にお答えします。境第一中学校吹奏楽部におきましては、平成16年より8年連続で東関東音楽吹奏楽コンクールに出場しました。一昨年には、東日本吹奏楽コンクールにおいて金賞受賞しております。今回初めてA部門において東関東の代表となり、10月22日に東京都の普門館で開催された吹奏楽の甲子園と称される第59回全日本吹奏楽コンクールにおいて、境第一中学校は見事な演奏をして、はえある金賞を受賞しました。この快挙は、町民にとっても大きな喜びであるとともに、境第一中学校が今後の歴史に名を残すものとなりました。このような大きな喜びを多くの町民とともに分かち合いたいとの強い熱い気持ちから、今回11月6日に境町中央公民館において第59回全日本吹奏楽コンクール金賞受賞記念演奏会を開催したところであります。この開催に当たりましては、数名の生徒が進路に関する事前説明会と重なり、日程調整に苦慮した経緯がありました。

ご質問の改めての演奏会につきましては、生徒の一人一人が今後進路に向けた大事な時期でもあることを考慮した場合、開催困難な状況であるので、ご理解くださいますようお願いいたします。また、例年境第一中学校では、3月下旬に定期演奏会を開催しておりますが、今後定期演奏会を充実させ、多くの方にごらんいただけるよう検討していきたいと考えておりますので、あわせてご理解くださいますようお願いいたします。

次に、懸垂幕などのPRをもっとすべきではなかったのかのご質問にお答えします。境第一中学

校の取り組みとしては、3階図書室の窓ガラスに内側から道路に向け張り紙をして、周知してきたところであります。懸垂幕の設置につきましては、境第一中学校の意向として、学校内でのPRのみでよいのではないかとこのことでしたので、町独自では懸垂幕を設置しませんでした。教育委員会としては、A1の大きさのポスターを作成し、町民に知らせるとともに、境第一中学校にお祝いを申し上げたところでございます。

以上でございます。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

濱野健司君。

○1番（濱野健司君） 再質問なのですが、今回私この一般質問で境一中のこの金賞というものを上げた経緯なのですが、こちら朝日新聞社で開かれた全日本吹奏楽コンクール、こちらテーマが「響け！復興のハーモニー」という震災が起きて、そしてこの暗い日本の中のコンクールということで、そしてこの境一中が全国大会で初出場した。そして、金賞をとった。このことが境町民の地震など暗い中にとっても明るいニュースとして町民を勇気づけたのではないかと。私は、その辺が一つのポイントとして、今回一般質問に取り上げさせていただきました。そして、教育長の答弁のとおり、生徒たちが受験に向けてスケジュールも非常に苦しい。その辺の話も聞いておりました。そして、12月10日ですか、TBSさんのコンクールのほうなどにも出場するというので、生徒たちが苦労している。そのような話も大変聞いておりました。

そして、私が一番訴えたいポイントとしましては、3月に定期演奏会があるというようなお話もありましたけれども、3月に地震が起きて、恐らく1年、またメディアなども取り上げて、大変また暗いムードが漂う中、その定期演奏会、そちらのほうを例えばですけれども、それを町を挙げて一つの盛大なセレモニー的なふうにしても、私はそれでも全然構わないのではないかと、そのような思いもあります。

そして、今回その初の全国大会出場で優勝したというお話なのですが、こちらに関しまして、今までも8回連続東関東へ出ているというようなお話をされましたが、金賞をとるようなこともありました。なぜ全国大会に出られなかったかと申しますと、今まではB部門という部門でエントリーをしていました。これは、編成が少ない人数でのオーケストラということで、その一番マックスがその関東大会ですとか、そのレベルになってしまい、その先の全国大会がなかったために今まで出場ができなかった。そのようなことをお聞きしました。そして、今回50人以上の編成ができたというところで、それで全国大会に出場し、そしてこの金賞をおさめた。そのようなことは大変に難しいことというお話を伺いました。その辺のお話をさせていただいたのが、同じように関東から金賞をとりました柏市の酒井根中学、そちらの顧問であります犬塚先生にお話を伺ったところ、その犬塚先生について少し説明させていただきたいのですけれども、この酒井根中学というのは8回連続全国出場して、もうとても名門なところなわけですね。この先生が10年間勤めて異動しなければいけない。

そして、異動した先が松戸の四中というところなのですから、この松戸四中というところも今回金賞をとっています。そのような先生にお話を伺いましたところ、境一中、この29校出場したのですね、全国大会。それで、28校が、皆様どこにその市があるかわかるというような市ばかりなのです。そんな中、境町立の境第一中学校が全国大会で金賞をとった。全国に名をとどろかせたというところでは、これは非常に名誉のあるところだと私自身は思っております。そして、その犬塚先生がおっしゃるには、その名門というところで全国出場しているところというのは、小学校のうちからある程度吹けるようになって入ってくる子たちが多いらしいのです。そんな中、ある程度全国大会に出場するということは当たり前のような感覚でやっている。ところが、境におきましては2万5,000人の人口の中からこのように毎回輝かしい成績をおさめて、そして今回優勝する。このようなことは本当にもう奇跡に近いとでもいうようなところのレベルの話らしいです。

そんな中、この境一中が今回11月6日に境町長の計らいでコンサートを受けましたけれども、町の中にはそのときやっぱり足がなくて行けないですとか、本当にほかのところでも開催してくれないか。そして、結構寂しい、高齢者の方に僕なんかいろんな話を受けたのですけれども、そしてもう一度やるというのであれば、ぜひ行きたいという声がすごくあったので、今回一般質問させていただきました。その辺について、その3月の定期演奏会を何か充実したような取り組みといたしますか、その辺の考えがないか、まずお聞かせください。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

教育長、佐怒賀政守君。

○教育長（佐怒賀政守君） 3月の下旬のころにこの演奏会をするというのは、これは境第一中学の吹奏楽部が主催で、卒業定期演奏ということで行われるのです。昨年は一中の体育館で行って、私も聞きに行ったのですが、これは町でお願いして演奏会を開催するというのではなく、境一中の吹奏楽部が卒業記念として演奏会を開くということですので、ご理解いただきたいと、このように思うのですけれども。

以上です。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

濱野健司君。

○1番（濱野健司君） そういうことであれば、例えばですけれども、先ほどPRの部分でも今回は懸垂幕のようなもの、そのようなもの、例えば今回は中学校で印刷して窓の内側から張った、そんな経緯を聞きました。そして、今回町では、例えばですけれども、中央公民館のところでも垂れ幕をつけるところもあると思いますし、そしてこの庁舎はどこから見ても見渡すことができます。庁舎にそのような懸垂幕のようなものを作ってPRするようなこと、そのようなことなどをしていけば、もっとこの町がもしかしたら何年、僕がたしか中学ぐらいのときから関東大会とかに出場していると思うのですけれども、そう考えますと一つの吹奏楽というものがこの町の目玉としてほかの地域から注目

されてきたのではないかと、そういう思いもすごくあるわけです。

ただ、しかし今回私一般質問のこの質問を取り上げて、もう一回演奏することがないかと取り上げて、それで各関係者に聞くと、それは厳しいのではないかと話も今までさんざんされました。それに当たって、例えばですけれども、もっと毎回やっている定期演奏会が皆さんが周知していて、皆さんが知っていれば、ではそれを見に行けばいいのだというような町民の思いもあったとしたらば、皆さんもそれで納得した部分もあるし、もう一度という声はなかったかもしれないと思います。それだけ今まで中学校の成績ですとか、活躍している部分というものが周知されていないからこそ、今回このような私のほうに意見が寄せられたというところから考えましたら、その定期演奏会、ことし地震が本当に起きて丸1年のところで多分予想されると思うのですよ、受験が3月3日なので。であれば、それをもう町としてももっとPRして、そして一つの一大のイベントとして、さらにそういうことを例えば町がやることによって、今のことしの3年生ですか、これは去年、おととしからの活躍を考えたら、非常にこの中学校で大変な努力をしたと思うのです。そして、この地震が起きたことに関しましても、今回先ほどの酒井根中の話なのですけれども、ここの中学校にみんな合同で練習をしたという声が寄せられて、合同で練習することもなかなか難しいらしいのですけれども、なんとこの境一中はことし全国大会を視野に入れてか、3月の14日か5日に合同練習を申し込んでいるのですよ。ところが、3月11日に地震が起きたせいで合同練習もなくなってしまう。そんな中、今回全国優勝したということで、この犬塚さんもこれはすごくおめでたいことだと言っていましたけれども、そういうことを考えた、頑張ってきた中学生、今の特に3年生のことを考えましたら、その定期演奏会、これがきっと恐らく、この全国金賞メンバーで最後の演奏になると思うのです。そこをもし町の協力をもとにみんなでもっとバックアップして、もっと盛大なもの、そして落ち込んでいる、震災から1年たって落ちている雰囲気の中に盛り上がる一つのイベントとしてやったら、町としても、そして生徒たちにとってもとても感動的なセレモニーになるのではないかと私はこのように強く思っています。

そんな中、先ほどのPR力が足りないという今までの足りないものもあったかもしれないですし、今回定期演奏会のことについても、中学校がやっていることだから、今回町はやらないのだよ。それでは何か寂しい気がしてしまいます。であれば、定期演奏会をバックアップするというような形であり、そして広報として金賞をとった演奏会、そしてまたアンコールのコンサートだよというような位置づけでも構いませんから、皆さんで盛り上がるように、そしてこの中学生に敬意を表して、大人がいろんな理由を貫くのではなく、あくまでも生徒に聞いて、もし生徒がやりたい、そして顧問の先生がそれでいいですよというような形をとれるのであれば、それで皆さんでバックアップして一つのイベントをつくる。このように持っていてもいいのではないかと私は思いますが、その辺について町長でも教育長でも、もしよければ返事をお願いします。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

町長，野村康雄君。

○町長（野村康雄君） 議員さんの気持ちはよくわかるのです。私のところへも実はもう一回やってくれないかという話が何件か来ています。特にまち内の人、この前行き損なつたと。土、日だとなかなか行けないという人もいますし、そういう中で平日に1回やってくれというような声も何人か来ています。

今私それ言わないのですけれども、なぜ教育委員会に言わないか。今子供にとっては、今まで本当演奏、楽器一本で朝早くから夜遅くまで練習してきてやっているのです。それを進学を迎えた3年生22人です。この人たちの心を乱したくないという気持ちが私にはあるのです、正直言って。教育委員長にも今初めてそういう要望があるよと言ったのは初めてなのですから、言わないで抑えてあるのです。その子たちがこれから将来に向かって、私は楽器であれだけのことをやってきた子だから、2カ月でも3カ月でも集中して勉強すれば、必ず希望のところに入れるのではないかと思っています。間違いなく入れるだろうと思っています、あれだけの集中力があれば。ですから、その子たちに今度町でまた演奏会を何日にやりますよとかそういうことになると、やっぱり心乱れるというふうなことも考えられますので、今のところはそっとしておいてあげようかなというのが、正直言って今まで私が思っていたところです。

その最後の発表会の日にも決まっていることですから、これはP T Aでやるということなのか。それではどうしても行きづらいという人、結構います。本当のことを言って、一中までは行きづらいという人。ですから、もう一回やる機会が何とかつけれないかなと気持ちの中にはあるのですけれども、今それを言いますと、教育委員会が学校に言いますと、今言ったように22人の3年生の生徒の進路、一番大事なときですから、そっとしておいてあげたいというのが今のところの気持ちで、議員さんの気持ちはよくわかりますので、私もそれなりに考えてみたいと、こう思っていますので、よろしくご理解いただきたいと存じます。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

濱野健司君。

○1番（濱野健司君） 町長、答弁ありがとうございます。

私自身も受験を何度も繰り返してきた人間として、本当にこれからいろいろ厳しい受験シーズンということで、そっとしておきたい、そのような気持ちも重々わかっております。そのような中、本当に3月ですけれども、その定期演奏会でも全然あれですけれども、町からも何か少し歩み寄るような協力的な体制をもちまして、P T Aさんもいろいろ本当に今回全国大会に向けていろんな苦勞、機材の運びですとか、現場に行くにしても仕事を休んだり、いろんな話も聞きました。そんな中、もし可能であれば、生徒たちも受験が終わると、定期演奏会に向かってまた部活に集まるような話も聞きましたし、そして落ちついたころでも結構です。定期演奏会の日にも決まっておりますことですし、そこで何か町としましてもできることがあれば、今回は本当先ほどほかの議員さんからもありましたけれども、ふだんであれば取り上げないような質問かもしれないのですけれども、ことしにしては本

当に地震の後ということで、流行語大賞ですけれども、あれでも10のベストテンの言葉がありまして、5個が震災関係なのです。でも、それでベストをとったのがなでしこジャパンということで、それはちょっと日本全国の規模で考えても、この暗い中に明るい話題をもたらす。そして、そこには血のにじむような努力があった。そのようなことを考えますと、この境一中の吹奏楽というものを今回本当に敬意を表しまして、皆さんからも何か協力の力があれば、本当に一つのイベントにしていただけないかという思いを最後に要望としまして、この質問を終わりにしたいと思います。

○議長（橋本正裕君） これで1項目めの質問を終わります。

次に、2項目めに対する答弁を求めます。

最初に、参事兼まちおこし推進室長。

〔参事兼まちおこし推進室長 酒井博司君登壇〕

○参事兼まちおこし推進室長（酒井博司君） それでは、続きまして2点目の地域活性化についてのご質問についてお答え申し上げます。

まず、1項目でありますけれども、震災後、各地でイベントなど盛り上がりを見せているが、軽トラ市の今後や何か考えはあるかのご質問でございますけれども、軽トラ市の開催につきましては、まちおこし活性化対策事業の一環としまして、平成20年7月に施行されました農工商等連携促進法に基づき、境町で設置した境町農工商等連携委員会におきまして、農業、商業、工業との関係者と消費者がともに連携を図り、相互交流を深めるとともに、地域のにぎわいを創設して、境町の活性化につなげることを目的として実施してまいりました。これまでに4月24日、菜の花フェスティバルとの同時開催、7月23日、さかいふるさと祭りとの同時開催、さらには10月22日、開催場所の制約から軽トラ市からテナント方式としましたけれども、境町商工会主催による復興支援市への協賛と参加、それぞれ同時開催による相乗効果によりまして、大きな反響を得ることができました。

今後におきましても、来場したお客様が心からお楽しみいただける催し物としまして、さまざまな機会をとらえまして継続して開催し、町の活性化につなげていきたいと、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと存じます。

以上でございます。

○議長（橋本正裕君） 次に、産業建設部長。

〔産業建設部長 須長 弘君登壇〕

○産業建設部長（須長 弘君） では、2項目の2点目についてご説明をさせていただきます。

宮本町のさくら土手でさくら祭りが開催されているが、内容を充実してはとのご質問でございますけれども、同町のさくら祭りにつきましては、まちおこしイベントといたしまして観光協会の事業といたしまして、毎年桜の開花に合わせて、さくら土手を初めふれあいの里、桜ヶ丘公園及びさくらの森パーク等においてちょうちん等を設置し、町民の皆様が桜を楽しんでいただいているところでございます。残念ながら本年につきましては、さきの東日本大震災の発生から中止とさせていただいたと

ころでございます。さくら祭り開催期間中におきましては、現在特別のイベント等につきましては取り組んでおりませんが、観光事業が人と人との交流や地域活性化を生むなど大きな効果をもたらすということから、観光協会や関係団体とも協議をしていきたいというふうに考えておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

○議長（橋本正裕君） 次に、教育次長。

〔教育次長 島根孝男君登壇〕

○教育次長（島根孝男君） 次に、2項目めの3点目について、私のほうから答弁をさせていただきます。

圏央道建設に伴い、ふれあいの里の伝統工芸館、バーベキュー広場が新しくなったが、施設を利用してイベントなどを計画してはどうかについてお答えを申し上げたいと思っております。議員ご指摘にあります伝統工芸館につきましては、本年6月30日に完成をしたところでございます、陶芸教室等に利用されているところでございます。なお、バーベキュー広場の整備につきましては設計済みでありまして、早期の工事発注に向け準備を進めているところでございますので、ご理解をいただきたいと思っております。なお、整備の内容ですが、バーベキュー広場はインターロッキング、食する場所については芝生を張る予定でありまして、敷地面積は3,246平方メートルであります。

次に、イベントなどの計画ですが、現時点ではありませんけれども、バーベキュー広場が完成した時点で何らかのイベント等を開催するか、さらに年間計画といたしまして、仮称でありますけれども、バーベキュー祭り等もあわせて検討していきたいと思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願いをいたします。

以上です。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

濱野健司君。

○1番（濱野健司君） ご答弁ありがとうございます。

この地域活性化についてでございますけれども、本当地震の後、各地でやはり自分たちの地域で盛り上げようとするべくいろんなお祭りですとかイベントごとに取り組む姿勢だったり、いろんなことが本当に地域に向けて目が向けられているようなことを非常に感じております。そして、先日議運のほうと総務のほうで高崎のほうに研修しに行ったときにも、やはり行政から地域の盛り上がりに向かって40万までの助成をするというような中、新しい祭り等も起きているという話も受けまして、そういうところからこの町に振り返ったときに、軽トラ市というものというのは、僕この町にすぐそばらしい取り組みだなと思っております。といいますのは、やはり軽トラをいっぱい連ねることで迫力もありますし、何せこの辺でやっていないようなイベントです。そのような軽トラ市ということでして、この宮本町のさくら土手でも開催することもできますし、例えば何もなくてその軽トラを集めることで、多分農家の伏木のほうの道でも連ねて、そういうところでも市場を開催できる。い

ろんなメリットがあると思います。

その軽トラ市なのですけれども、ちらっと聞いたのですけれども、野菜などの収穫時期ではないときなんかの開催なんかは、すごく野菜売るのがなかったりして大変という話を聞きまして、そうすると参加なんかも少なくなるというお話を聞いたのですけれども、そのような話というのは事実そうなのでしょうか。

〔「何ですか」と言う者あり〕

○1番（瀨野健司君） 以前経緯としまして、愛知県に研修に行かれて、そちらを多分モデルとして軽トラ市というようなものを開催したというお話を聞きましたけれども、基本的スタンスとしては野菜を売るというものだったと思うのですけれども、そんな中私が申し上げたいのは、例えばですけれども、軽トラを持っていない方とかそういう方というのはなかなか参加しづらいというお話を聞きまして、そういった場合に例えば農作物がない時期に何かのイベントで開催するときなんか、例えば軽トラなんかをお借りして、そこで新しい人たちとか、ほかの参加者、軽トラを持っていない参加を希望する人たちが借りれるような、何かそのようなことというのは可能なのですか。新しい形としてなのですけれども、わからないのですけれども。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

産業建設部長。

○産業建設部長（須長 弘君） ただいまのご質問にお答えをさせていただきます。

ご存じのように、3月春作につきましては、どうしても施設ものというようなことで、ハウスで栽培されたようなものが野菜としてはなります。そうしますと、どうしても3月の初め、中旬ごろまでは出荷のものがかかりないというような状況になります。特に軽トラ市関係につきまして少量多品目が必要になります。そうなりますと、どうしても露地栽培での栽培の品目が主になりますので、野菜の作物を集めるというのはなかなか厳しい状況にあるのかなというふうに考えてございます。

また、軽トラをあいているときに借りるというような部分につきましても、持ち主がいますので、その人たちもやっぱり必要性があって買っておくものですから、この時期あいていますから貸すよというようなわけにはなかなか難しい部分もあるのではないかなというふうに考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

瀨野健司君。

○1番（瀨野健司君） 答弁ありがとうございます。ちょっと質問が下手で申しわけございません。

といいますのは、私のほうの同級生なんかやっているイベントをつくっている方たちからいろいろな話を聞いたのですけれども、その人たちというのは物づくり市というものを開催しているのですけれども、それは神社なんかを借りて、そこで自分たちが持ち寄って、作品なんかを並べてそれを売るというお祭りで、それは結構商店街なんかと一緒にあって、古河のほうですとか、結城なんかのほう

ですとか、その辺の方たちとコラボレーションではないですけども、そういうことをして出している。それは商工会単位ではなくて、個人でも参加をしているという一つの例なのですけども、軽トラ市が非常に周りの若い人たちの中ではすごくインパクトがあって、都会ではもちろんできないですし、そういった中からこのような会に参加したいという場合に、やはり軽トラがないとそこに参加をできないというお話がどうしても強いのです。

もしなのですけども、境町で軽トラ所有率はすごく多いと思うのです。主は農家さんなんかが持っているのが傾向がすごくあると思うのですけれども、その農家の収穫時期とかそういう時期ではないときに、もしイベントを何かに合わせて開催するようなことが可能として、例えばですけども、いつも開催している軽トラ市で今回軽トラをうち使っていないのがあるから貸しますよというような方ももしかしたら何に在るような可能性はすごくあると考えたとしますと、そういうことも可能かなと思ひまして、そのような軽トラ市で斬新的なものを置いたり、またその中の一つのメンバーとしては大道芸人の方がいるのですけれども、それはもう境の菜の花まつりのときにも1回呼ばれてきている子なのですけども、その子なんかも軽トラ市、愛知県のそこだったか、ちょっと覚えていないのですけれども、そのような軽トラの上で1時、3時、5時にパフォーマンスしますというようなことをやったり、その合間の時間には風船で1つ100円のものの子供たちに配る。そのようなことをやったというお話を聞きまして、であれば境町の軽トラ市でも、軽トラさえ借りるようなことができれば、もっと今までよりも発想の違った、そして時期とか関係なくも新しい軽トラ市が開催できる。そして、そのようなイベントが盛り上がるということで、今度圏央道ができた後に境町では軽トラ市というのも定期的にやっているのだよというものが呼び込み剤となって、そしていろんなところからそれが今度注目を得れば、もっと規模の大きなものになっていきますし、そうなってくるとやはり軽トラを持っている人しか参加できないというものが少し苦しい気がしてしまうのです。その辺をもし何か町のほうでひとつお知らせ版でも何でも図っていただくような形をとりまして、もし業者の中から貸していただけるようなところがあれば、そのような取り組みということを考えてもいいのではないかと思いますけれども、それについてはどう思いますか。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

産業建設部長。

○産業建設部長（須長 弘君） お答えをさせていただきます。

基本的には今の軽トラ市で参加をしていただいているのが、農商工連携とか地産地消委員会というような方の農家の方が主でございますので、この方々とよく協議をさせていただきたいというふうに考えておりますので、ご理解をいただきたいと思ひます。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対する質問はございますか。

濱野健司君。

○1番（濱野健司君） 検討していただくということなので、非常にありがたいことなのですけども

も、可能性としまして、せっかく町長がたしか2年前でしたか、白井市に研修なされてからこういう形で始まりまして、そしてイベントにひとつオプションとして加わっていると思うのですよ、ふるさと祭りにしても、菜の花まつりにしても。例えばですけれども、2番目の項目ですけれども、さくら祭りに例えば電気を出しているだけですと、やはり震災の後、3月の時期、4月というところで、やはり電気が無駄なのではないかとかそういうことが起こり得ますし、そんなときにさくら祭りの最後のイベントで軽トラ市をやりますというイベントごとがありきで考えれば、そういったものも可能になってくるといことから考えますと、非常に軽トラ市の盛り上がりというものでどんどん町が活性化するのはないかと私自身は思っております。

それで、軽トラ市の話は、今後もしかしたらなのですけれども、せっかく立ち上げた軽トラ市が野菜を売るというものだけでやっていたり、そういうのではないのですけれども、もちろんばんどう太郎さんですか、平井自動車さんみたいなほかの業者なんかもやっているのです、もちろんそれはわかっているのですけれども、もしそのようなスタンスでやり続けてマンネリ化して、少し何か熱が冷めてしまうようなことが起こり得るとも考えられるので、そのような工夫ですか、新しい取り組みなんかも考えていっていただきたいなと私は思います。そのような項目で、この1点目の軽トラ市、さらには2点目の宮本町のさくら土手の話も質問を終わりにして、3点目の件に再質問させていただきたいのですけれども、よろしいでしょうか。では、町長に意見をよろしくお願いします。済みません。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

町長，野村康雄君。

○町長（野村康雄君） 時間が余りないですけれども、お答えさせていただきます。

愛知県に私も一緒に行ったのですけれども、忘れもしない、30分のところ3時間かかって行ってきたのですが、道路で交通事故でありました。あそこはまちの中でまちの活性化対策として毎月やっているのです。感想は失礼ですから、私申し上げません。ここではあえて。そういうのを研修した中で、まちおこし推進室主体で、いわゆる農商工連携のほうで軽トラ市をとりあえずやってみようということとで始まったのが菜の花フェスティバルのときに始まりました。これ結構盛況だったのです。その後、お祭りのときにやって、この間復興支援市という形で3回実施しました。これいずれも盛況で、結構売り上げもまあ、まああったわけでありまして。ただ、野菜については、さっき言ったとおり時期がありますので、さくら祭りのときは多分春野菜が出てくるころですね、3月末ですとやや出てくることで可能かと思えます。今も推進室とちょっと検討してみたらという話をさせていただきました。

あと、軽自動車の借り入れ、これは今言った農商工連携のほうで調整すれば、2台や3台簡単にできると思えます。もしそういう要望があれば、ぜひ出しておいていただければ。可能性はもう100%だと思っていますから大丈夫です。そういう形の中で続けていきたいと思っていますし、今大洗町と話し合いをして、魚を今度持ってきてやってみたいと思っておりますけれども、これトラックで魚を持ってきて、販売ができるような。そういうことも含めて進化させていかないとだめですし、ただ毎

月定期的にやるというのはちょっと難しいのかなというのは、見てきた感想の中でもそういうのがありましたので、今後議員さん方もぜひいろんな意見を出していただいて、活性化に向けて頑張っていきたいと思いますので、よろしくご理解をいただきたいと存じます。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

濱野健司君。

○1番（濱野健司君） 町長，答弁大変ありがとうございます。そのようなお気持ちがあると聞いて、すごくうれしく思いました。

私自身もすべてのイベントにほぼ出店者としても参加したこともありますし、本当に地域の人が先日雨の中でもイベントを開くと野菜が風評被害がある中、皆さん重いものを抱えて買って行くようなところを本当に目にしますし、イベント力というものをすごく感じていますので、これからもそのような取り組みをよろしくお願いします。

そして、この3点目のバーベキュー広場と伝統工芸館のお話なのですが、こちらで今度バーベキュー祭り、仮の名前ですけれども、芝生を敷いていただけるですとか、そのようなことを受けまして、非常にこれはうれしく思います。そして、ここたしかこれは12月の定例会のときに橋本議長さんが一般質問で取り上げた内容の中に、副町長の答弁としましてグリーンツーリズム的な推進に取り組んでいくというご答弁もいただきましたし、このバーベキュー場というのは私も複合施設として今後楽しみだなという思いは非常にあります。それで、地域のバーベキュー場なんかを見ましても、やはり使用率がすごく高いのです。

そんな中に例を挙げますとネーブルパークですか、あそこは泊まる施設もあり、子供が遊べるような公園もありますし、そこに境町もあそこ、陶器をつくる施設なんかも隣に伝統工芸館がありますけれども、ふれあいの里ではなくて、ネーブルパークに僕ちょっと研修に行ったときに、割れてしまったからいいですよと言われて、4歳の子がさらに絵を書いて、そこで焼いた。ネーブルパークでそういう取り組みをやっていまして、これを使ってバーベキューをするのだと言って、子供たちが非常に楽しんでいたのです。やっぱり子供にとっては、その辺のありふれたものをそのまま使うというのにはなれていますけれども、やはりこうやってつくって焼いて、それを実際に自分たちで使う。そういうことにすごく学習というか、学ぶようなところをすごく感じました。これ4歳の子が書いたものなのですが、そういうものを考えますと、そういったものも可能かなと思います。

そして、陶芸館は何か教室の方しか今のところ利用できないというような考えを聞いたのですが、あそこも窯もたしか新しく買い、幾らしたのかとかもちょっとお聞きしたいのですが、それと教室に参加されない方も使えるような何か制度というものをつくったりするか、その辺のことも踏まえまして、ちょっとお答え願いますか。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

教育次長。

○教育次長（島根孝男君） ただいまのご質問にお答えをしたいと思います。

まず、陶芸用の電気窯の値段なのですけれども、182万7,000円ほどしております。あわせて電気設備を加えますと250万近くの費用がかかっております。それと、陶芸教室とのタイアップというふうなことだと思っておりますけれども、その辺については今後の大きな課題といたしまして、イベント等々あわせて検討していきたいな、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

濱野健司君。

○1番（濱野健司君） そのような考えを持たれているというようなことなので、これから本当どんどん、皆さんがせっかく180万、僕見させていただいたのですけれども、本当立派な窯ですから、その辺も皆さんが使いやすい環境であれば、非常に複合施設としていいのではないかと思います。

そして、橋本さんが1年前にやった一般質問の中でも出ているのですけれども、このバーベキュー場に屋根をという話がありまして、非常に僕それ重要な話だと思っております。といいますのは、なかなか屋根つきのバーベキュー場がない中、その辺のことをたしか質問で訴えていただいたと思うのですけれども、そちらについて屋根などの考えというのはあるのか、ちょっとお聞きしたいのですけれども。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

教育次長。

○教育次長（島根孝男君） ただいまのご質問にお答えをさせていただきます。

多分バーベキューのいわゆる設備の内容かなと思っておりますけれども、今回移動式の折り畳みのいわゆるファミリーベンチセットと呼ばれるものなのですが、これにつきましては10セット、あわせてパラソルも10セット準備すると、こういう計画になっておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

以上です。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

濱野健司君。

○1番（濱野健司君） 時間もないので、最後の要望という形でしたいと思うのですけれども、パラソルですけれども、パラソルでありますと例えば雨が降ったときに、わざわざパラソルをしてバーベキューをするようなというのはなかなかないと思うのです。それで、先般あずまやを174万であそこを建てたと思うのですけれども、その取りつけた業者の方にお話を伺ってまいりました。そして、あれほど立派なものでなければ、40万ほどで1個というのですか、屋根のようなものをつけることが可能だと聞きました。であれば、あそこたしかコンロが5台だったと思うのですけれども、5個分をつけようと思っても200万だと思うのです。単純計算なのですけれども。そして、前回橋本さんが一般質問なされたときに9,000万のお金の枠組みからその施設をやっていきますというお話の中で、僕はできないことではないと思っております。そして、それがあることではほかのバーベキュー場より違いを見せられ

ることもできますし、雨でも皆さんが計画的に取り組んで、そこをにぎわすことができると思います。そして、そのようなことが盛り上がってくれば、また次の展開も見えてきますし、ちょっと市民農園のことも入れていきかけたのですけれども、その辺を要望して、一般質問のほうを終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（橋本正裕君）　これで濱野健司君の一般質問を終わります。